

コロナと人間交際

じんかん

「福井モデル」によれば、新型コロナ陽性者の約八五%がマスクなしの会話によって発症し、マスク会食を推進している飲食店には一〇万円の奨励金が支給されているという。東京都小平市の公式ホームページによると、同市は「黙食ポスター」を作成、緊急事態宣言の発令期間中はこれを利用するよう市民に求めている。「食事中の会話が飛沫感染のリスクになります。ノーマスク時のおしゃべりはお控えください」とある。

このことをここで話題にしたのは、「だったら、ひとりで静かに食べたらどうか。そうまでして他者と一緒に食事などしなくていいのではないか」と、かくそう考えがちだが、そういう考え方は人間というものの本質を理解していない者の繰り言だといいたいからである。

人間の本质はコミュニケーションにある。コミュニケーションとは他者との交流であり、交流を通じて他者と何かを分かち合うことである。人間は人ではない。人と人との関係性の中に人間はある。人間

渡辺利夫 (公益財団法人イヌスカ会長)

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学、東京工業大学教授、拓殖大学学長、総長、学事顧問などを歴任(二〇一〇年十二月、退任)。二〇一七年八月より現職。

とは「ひとあひ」であり、人付き合ひ、つまりは交際なくして人間は存在しない。

人間とは、そういう意味でそもそもが社会的な存在なのである。ソサイエティは社会である。しかし、ソサイエティが社会という日本語として定着するまでには紆余曲折があったようだ。それをここで記す余裕はないが、出発点は *societas* という英語に福澤諭吉が出会った時に大いに戸惑いながらも、彼はこれに人間交際という訳語を与えた。人間を人間と読むことによって、人間がただの人ではなく人の住まう空間だという語感を与え、さらにその語感を強めるために交際までを付したのである。このことによっても私どもは、人間というものの本質が人と人との関係性の中にあることを知ることができる。

感染防止のためにマスクをして三密を避け、黙食までを求める、人間の本质からは遠くかけ離れたこの行動変容の要請は、それゆえ所詮は一時的なものでしかあり得ない。ワクチン接種が急がれる真の理由がここにある。